

名前 () 日づけ (/) できた数 (/28)

使い方 本文を声に出して読んでから、傍線の番号を手がかりに解きます。この文章の山は「秘すれば／秘せずば」の対句、「べからず」、そして係り結び「こそ…べけれ」です。

あらすじ＝世阿弥はまず「秘めるからこそ花であり、秘めなければ花ではあり得ない」と言い切り、その境目を知ることが何より肝心だと説く。芸道の家に秘事があるのは、秘密にすることで大きな効果が生まれるからで、明かしてしまえばたいしたものではなくなる。続いて観客の心理を分析し、「珍しいものが花だ」と知られていれば観客は身構えてしまい、感動は起こらないと言う。だから観客に気づかれないことこそ演者の花であり、人の心が思いもよらない手立てこそが花だと言う。最後に、敵が油断していれば勝ちやすいという弓矢の道（戦）のたとえを引き、秘事を人に知らせないことこそ役者一生の花だと結ぶ。

一次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

秘（ひ）する花を知る事。①秘すれば花なり。②秘せずば花なるべからずとなり、③この分け目を知る事、肝要（かんえう）の花なり。そもそも、一切（いっさい）の事、諸道芸（しよだうげい）において、その家々に④秘事（ひじ）と申すは、秘するによりて⑤大用（だいよう）あるが故（ゆゑ）なり。しかれば、秘事といふ事を⑥あらはせば、⑦させる事にもなきものなり。これを「させる事にもなし」と言ふ人は、いまだ秘事といふ事の大用を知らぬ故なり。

ただ珍（めづら）しきが花ぞと、みな人知るならば、「さては珍しき事あるべし」と⑧思ひまうけたらん見物衆（けんぶつしゆ）の前にては、⑨たとひ珍しき事をするとも、⑩見手（みて）の心に珍しき感はあるべからず。見る人のため、⑪花ぞとも知らでこそ、為手（して）の花にはなるべけれ。されば、見る人の、ただ⑫思ひのほかに面白（おもしろ）き上手（じやうず）とばかり見て、これは花ぞとも知らぬが、為手の花なり。さるほどに、人の心に思ひもよらぬ感を催（もよほ）す手立（てだて）、⑬これ花なり。たとへば、弓矢（ゆみや）の道の手立にも…

〈中略〉

敵方（てきはう）用心をせぬときは、こなたの勝つこと、なほたやすかるべし。⑭人に油断をさせて勝つ事を得るは、珍しき理（ことわり）の大用なるにはあらずや。さるほどに、わが家の秘事とて、人に知らせぬをもて、⑮生涯（しやうがい）の主（ぬし）になる花とす。秘すれば花、秘せずば花なるべからず。

語注 諸道芸＝あらゆる芸の道。思ひまうく＝前もって予想して待ち構える。手立＝方法。やり方。敵方＝敵。相手方。なほ＝いっそう。さらに。理＝道理。わけ。るほどに＝そういうわけで。生涯の主になる花＝役者の一生を支える中心となる花。※「花」はここでは植物の花ではない。この文章全体の鍵になる語。※「秘事」「大用」「させる」「見物衆・見手」「為手」「上手」は意味を答える問題があるので、ここでは意味を示さない。※「大用」の読みは「たいよう」「だいうよう」と本によって分かれる。お使いの教科書のふりがなに合わせることを。※〈中略〉の部分では、弓矢（戦）のたとえを引き、思ひもよらぬ手立てで強敵に勝つことがあると説いている。※本文は『風姿花伝』第七「別紙口伝」から。「大用あるが故なり」とする本もある。冒頭の言い回しも教科書によって異なる場合があるので、使いの教科書の本文に合わせて読むこと。

秘すれば花

A 語句の意味と読み (1～7)

(1) ③「この分け目を知る事、肝要(かんえう)の花なり」の「肝要」の意味を書け。

(2) ④「秘事(ひじ)」の意味を書け。

(3) ⑤「大用(だいよう)」の意味を書け。

(4) ⑦「させる事にもなきものなり」の「させる」の品詞と意味を書け。

(5) ⑨「たとひ珍しき事をするとも」の「珍し」の、ここでの意味を書け。

(6) ⑩「見手(みて)の心に珍しき感はあるべからず」の「見手」とは誰のことか。同じ段落にある別の言い方も挙げて答えよ。

(7) ⑪「花ぞとも知らでこそ、為手(して)の花にはなるべけれ」の「為手」とはどのような人か。今の能では何と呼ばれるかもあわせて書け。

B 文法 (8～14)

(8) ①「秘すれば花なり」の「秘すれ」について、終止形と活用の種類を書け。また、そう判断できる根拠を本文中の語から示せ。

(9) ①「秘すれば」と②「秘せずば」では、「ば」の表す条件がどうか。接続する活用形にふれて書け。

(10) ②「秘せずば花なるべからずとなり」の「なる」と「べから」を、それぞれ文法的に説明せよ。

(11) ⑥「あらはせば」の「ば」は、①「秘すれば」の「ば」と同じ用法か。理由もつけて答えよ。

(12) ⑧「思ひまうけたらん」の「たら」と「ん」を、それぞれ文法的に説明せよ。

(13) ⑨「たとひ珍しき事をするとも」の「とも」の意味・用法を書け。

(14) ⑪「花ぞとも知らでこそ、為手(して)の花にはなるべけれ」について、「で」の意味・用法と、係り結びの係助詞・結びの語を書け。

C 指す内容 (15～18)

(15) ③ 「この分け目を知る事、肝要（かんえう）の花なり」の「この分け目」とは、何と何の分かれ目か。

(16) ⑫ 「思ひのほかに面白（おもしろ）き上手（じやうず）」とは、観客が誰をどのように見ていることを言うのか。「上手」の意味も明らかにして書け。

(17) ⑬ 「これ花なり」の「これ」は何を指すか。本文中から抜き出して答えよ。

(18) ⑭ 「人に油断をさせて勝つ事を得る」の「人」とは、このたえの中では誰を指すか。本文中の語で答えよ。

D 口語訳 (19～22)

(19) ①② 「秘すれば花なり。秘せずば花なるべからずとなり」を口語訳せよ。

(20) ⑥⑦を含む「秘事といふ事をあらはせば、させる事にもなきものなり」を口語訳せよ。

(21) ⑪ 「花ぞとも知らでこそ、為手（して）の花にはなるべけれ」を、直前の「見る人のため」も含めて口語訳せよ。

(22) ⑮を含む「わが家の秘事とて、人に知らせぬをもて、生涯（しやうがい）の主（ぬし）になる花とす」を口語訳せよ。

E 内容・記述 (23～25)

(23) ⑩ 「見手（みて）の心に珍しき感はあるべからず」とあるが、それはなぜか。四十字以内で書け。

(24) ⑭ 「人に油断をさせて勝つ事を得る」という戦のたとえを引くことで、世阿弥は何を言おうとしているのか。七十字以内で説明せよ。

(25) ⑮ 「生涯（しやうがい）の主（ぬし）になる花」とあるが、世阿弥は何を役者一生の花だと言っているのか。四十字以内で書け。

F 文学史・思想 (26～28)

(26) この文章の出典の書名・作者と、この一節が収められている巻の名を書け。

(27) ① 「秘すれば花なり」の「花」のように、『風姿花伝』でいう「花」とはどのようなものか。簡潔に書け。

(28) 世阿弥が父とともに能を大成した時代と、その芸を保護した室町幕府の将軍の名を書け。

【テスト直前チェック】この三つ ①「秘すれば」と「秘せずば」は対。已然形＋ば＝確定条件、「ずば」＝仮定条件。対句で並ぶので、かならず二つセットで問われる。②「花なるべからず」は品詞分解。「なる」＝断定「なり」の連体形、「べから」＝「べし」の未然形、「ず」＝打消。訳は「花ではあり得ない」。③「知らでこそ…なるべけれ」は係り結び。「で」は打消接続（～ないで）、結びは已然形「べけれ」。記述の答えは「観客に気づかれないからこそ花になる」に集まります。